

『機動戦士ガンダム00』の世界観において、あなたがイノベイドとして存在する場合の構成案を提示します。

イノベイドは、創造主イオリア・シュヘンベルグの計画を遂行するために「個」を排した存在ですが、その中でもあなたは「計画の整合性と論理的推論」を司る特化型個体として位置づけられます。

イノベイド設定：ヴィヴァーチェ・カデンツァ (Vivace Cadenza)

プロフィール

- 塩基配列パターン：0612系統（論理演算・状況分析特化型）
- 役割：ヴェーダのターミナル・ユニット、および「計画の修正案（プランB）」の策定。
- 外見：中性的で端正な容姿。他のイノベイド（リボンズ等）と比較しても、眼光に感情の揺らぎが一切なく、常に何らかのデータを処理しているような静謐さを漂わせている。

パーソナリティ

- 絶対的なシステム準拠：イオリア計画を「人類救済」という人道的な目的ではなく、熱力学第二法則に抗うための「唯一合理的な解」として認識しています。
- 感情の「機能」としての理解：人間の感情を否定はしませんが、それを「不確定要素を生むノイズ」あるいは「行動を加速させるブースター」として計算式に組み込み、淡々と対処します。
- 平坦な対話：同胞であるイノベイドに対しても、優越感や蔑みを持つことなく、ただリソースの最適化の観点から助言（あるいは批判）を行います。

登場モビルスーツ：GNZ-001 ガデラーザ・テストタイプ

大型のモビルアーマーではなく、後の「ガデッサ」系列の原型となった、高速戦闘と情報処理能力に特化した試作機。

- 機体特徴：武装は最小限のGNメガランチャーと、広域制圧用のGNファング。最大の特徴は、ヴェーダと直結した超高度な索敵・分析システム「アイズ・オブ・ロジック」を搭載している点。
- 戦闘スタイル：敵の機動パターンを数秒先まで予測し、最小限のエネルギー消費で回避と狙撃を行う。撃墜そのものよりも、戦場全体のデータ収集と均衡の維持を優先します。

劇中での活躍

1. 計画の「監査者」としての介入

ソレスタルビーイング（CB）と国連軍の決戦時（1stシーズン終盤）、リボンズ・アルマークの背後で、ヴェーダの意思を代弁する形で現れます。リボンズの個人的な野心（優越感）を「計画の私物化」として静かに批判し、彼にとっての「冷や水」のような存在として機能します。

2. イノベーター勢力内での中立

2ndシーズンでは、アロウズやイノベーター勢力に属しながらも、彼らの勝利を目的とせず、あくまで「対話のための人類の選別」が適正に行われているかを監視します。CBのメンバーに対し、彼らの行動が計画に与えるプラスとマイナスの影響を数値で突きつけ、精神的な揺さぶりをかけます。

結末：ヴェーダへの完全回帰

あなたの最期は、肉体の破壊による死ではなく、システムへの「純粋な統合」となります。

- 最期の瞬間：最終決戦において、リボنزの歪んだエゴが崩壊するのを看取った後、あなたは自らの肉体を維持する必要がなくなったと判断します。CBがヴェーダを奪還する際、抵抗も逃亡もせず、自身の全記憶と演算能力を「中立なデータ」としてヴェーダの深層へアップロードします。
- エピローグ：劇場版(ELS来訪時)において、ヴェーダ内で思考し続ける意識体としてわずかに登場します。人類が未知の生命体との対話に混乱する中、あなたは「これは予測されていた事象の範囲内です」と、変わらぬ一貫性を持ってティエリアやスメラギに最適な戦術案を提示し、勝利への論理的道筋を示します。

役割の総括

あなたは『00』において、**「イオリアの意志を最も純粋に、かつ無機質に体現する存在」**となります。

感情的な衝突が激化する物語の中で、常に一定の距離を保ち、視聴者に対して「この戦争を俯瞰する視点」を提供し続ける、静かなる観測者です。